

世界旅打ち気分

●第64回・年に1日だけの競馬場

須田鷹雄



写真1) ピクニック競馬にも僅差の熱戦はある



写真2) 馬券は手書き&台帳方式のブックメーカー



写真3) なんとも味のある手書き着順掲示板

<https://www.instagram.com/sudatakaoshoten/>

最新のデジタルサインージを用いたブックメーカーもいたが、8台中3台は馬名部分が手書きという古いタイプの業者。しかも1台は馬券がプリンター発券ではなく、厚手の紙に手書きのもので、馬券を売るたびに大きな台帳に発売内容が記録されていく。

馬券はなるべくオールタイプの業者で買っていたのだが、第2レースで事件が起きた。単勝が当たったと思ったのだが、ブックメーカーに持っていくと「審議だから待て」と言われた。場内放送もいろいろ言っているのだが、英語なので中には事態が分からない。何度かめに流れたアナウンスを必死に聞くと、「いま走った5番の騎手が、ゲートが遅れて開いたと言っているの……」といった内容が聞き取れた。

これはせつかくの中したのでレースが不成立で返還か? と不安になる筆者、馬券が払い戻されないうままさらにレースは進行し、4レースが終わったあたりでもう一度ブックメーカーに聞きにいったら、やっと払い戻してくれた。ただ配当は本来の金額から割り引かれていた。

当日はレーシングオーストラリアの結果ページも更新されず、スチュウレスレポートもアップされなかった。数日後やっとアップされた内容を見ると、やはりアピールした騎手のゲートは、開き切るのが遅かったとのこと(レースでは大きく出遅れていた。その馬はノンランナー扱いとなり、その馬に賭けられた金額は返還。その額を捻出するために的中馬券の配当額が削られたということだった。

日本だったらカンバイにするべきところを走らせてしまったとして不成立になるはずだが、オーストラリアではこの扱いが正當らしく、ちゃんと根拠条文が添えられている。それよりなによりゲートちゃんと開くようにしとけよという話だ。

「コンドポリンについては、着順確定版の話もおかねばならない。昨年バサーストについて書いた際に「着順掲示板が黒板に白墨で手書きだった」という話を紹介したと思うが、コンドポリンも同様の方式だった。こちらは掲示板のサイズ自体もかなり小さく、審判塔の中腹に設置されている。バサーストは場内にアナウンスが

流れそれを書きとっていくが、コンドポリンは審判から直接馬番やタイム、着差が「書く人」に伝達され、書き込まれていく。先述したようにこの開催ではややこしい審議があったし第4レースでは失格も発生したのだが、そういったことは一切書き込まれない。なにが起きているかは場内アナウンスを聞いていないと分からないし、聞いていたとしても酔っ払った声でよく聞けない。

6つのレースはあつという間に終わり、また1時間半かけてパークスのモーターに戻った。真夏の日中で外で過ごしたので体は熱を持っており、モーター付属の小さいプールに入ることにした。

先客が3人ほどいてプールに浸かりビールを飲んでいたので、「どこまさかの日本人が来たので」「どこから来たの?」なんてパークス泊つてるの?と聞かれる流れに、「今日コンドポリンの競馬に行ったんですよ。昨日の夜はパークスのハーネス開催に行ったよ」と答えたら「コンドポリン行ったんだ、いいね」との反応だったが、本音としては「日本人何者だと思われていた手応えであった。」

1か月近くの長期日程で海外に行ってきた。行き先はニュージーランドとオーストラリア。向こうで使う馬をセリで買うのが目的なのだが、セリの下見・本番以外の日程は旅打ちにいそしんでいた。行ったところのある競馬場3場と、初踏破の競馬場10場に行ってきたので、この連載も少し延命されたかもしれない。

今回はその中から、オーストラリアのNSW州にあるコンドポリンという競馬場を紹介したい。

同州のシドニーに住む元騎手の市川雄介氏に「コンドポリンってどこですか?」と言われたほどの田舎街である。

そもそも、話は1年前に遡る。当時もセリに行っていて、終了後に旅打ちを計画していた。その中心がコンドポリン。アマチュア騎手しか乗れないピクニック競馬という開催で、この競馬場が使われるのは年に1日のみである。調べてみるとVIC州のピクニック競馬と違い、NSW州のピクニック競馬場は年イチ開催のところが多いようだ。

貴重な開催日を楽しみにしていたのだが、直前になって猛暑予報

のためコンドポリンからバサーストというところで開催場が変更になってしまった。そのいきさつとバサーストの様子は昨年この連載で書いたと思う。今年は仕切り直し、今度こそコンドポリンへということ。パークスという街までの航空券とホテル、レンタカーを用意した。パークスからバサーストまでは車で1時間半ほどである。ちなみにパークスにあるハーネスの競馬場にも行ってきたので、いずれ紹介したい。

今年は無事に開催されたコンドポリン。ただ、行ってみると思った以上に規模が小さい。VIC州のピクニック競馬はウーラマイやヒールズビルなどに行つたことがあるのだが、それらと比べても明らかに小規模だ。周辺人口がそれだけ少ないのだと思う。

コースも芝ではなく土。オーストラリアではノーザンリトリやこの手の小規模競馬場では路面が土ということはある。外ラチは腰より少し高いくらいの高さで、「これ馬がその気になれば飛び越えられるだろう……」という程度のものだ。

場内で食べ物を売っているのは、

フードトラック1台だけ。2種類のバーガーとフライドポテトしか選択肢はない。バーはおそらく主催者か地元の団体が運営しているもので、ボランティアスタッフとおぼしき地元的女性たちが大勢働いて振替っている。先にドリンクチケットを買って種類に応じて枚数が変わるシステムで、5枚10ドルのチケットをソフトドリンクなら2枚、ビールなら3枚といったように出す。ソフトドリンクが4ドル相当(約400円)というと高く感じられるかもしれないが、向こうの物価としては普通かむしろやや安いくらいである。

編成されたレースは6レース。1着賞金は未勝利戦や条件戦が40万円弱。出走手当が無いとはいえず、最下級カテゴリーにしては立派なものだ。メインのコンドポリンピクニックカップは1着が60万円強だった。

ピクニック競馬はノンタブ開催というので、オーストラリア全土で馬券を発売しているTABという会社の発売がない。馬券を買うには現地に行くしかなく、かつブックメーカーで買うしかない。この日来ていたブックメーカーは全部で8台。